

第2回 「国土交通広域連携中部会議」

議事速報

日 時 平成17年11月18日(月)14:00~14:50
場 所 名古屋観光ホテル 2階「曙の間」

1. 開会

○司会 (中北 中部地方整備局副局長)

- ・ 開会宣言、主旨 (略)

○大村 中部地方整備局長

- ・ 挨拶 (略)

○司会 (中北 中部地方整備局副局長)

- ・ 静岡市長の参画について (略)

○小嶋 静岡市長

- ・ 静岡市は、旧静岡市と旧清水市が2年半前に合併して誕生し、今年4月に14番目の政令指定都市となった。
- ・ 静岡市は、東京、名古屋の中間に位置しており、現在、第2東名と中部横断道路の整備が進行中であり、幅広い圏域に影響を及ぼす都市になろうというところである。
- ・ また、特定重要港湾である清水港を中心にして都市の活力を高めていきたいと考えている。
- ・ 今後とも、中部地域の一員として役割を果たしていきたいと考えている。

2. 議 事

- ・ 「まんなか懇談会ポスト万博宣言」について

◇ 話題提供

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

[資料 『まんなか懇談会ポスト万博宣言 テイクオフ中部
国土の健康回復を実現する中部のモノづくり』の説明] (略)

- ・ 万博は、2205万人を集め、大いに成功した。しかしながら、万博が真の成功を収めるためには、万博で培った心の継承とその発展が必要であり、それが地域づくりに貢献されなければ意味がないと思う。人が集まったという事実と交流したという事実から、これから何をすべきかを考える必要がある。
- ・ 環境についての理解は前進した。これを生活、政治、地域の運営に活かしていかなければならないと思う。
- ・ これらが結実して初めて真の成果と言えらると思う。「万博の心をいつまでも」と思う。今後、今回提示するビジョンの実現に向けた、長期的な議論とフィードバックが重要であると考えている。

○松尾 (社)国立大学協会専務理事

- ・ 社会資本整備は、3世代、4世代先の人たちとも価値観を共有していける、100

年先を見据えた責任ある計画で行う必要がある。そのためにまずはグランドデザインをつくる必要がある。そのうえで、10年、20年先の短期計画、40年、50年先の中期計画に分けて計画をつくる必要がある。

- ・日本の現状は、人口をはじめ物理的な諸量が縮小に向う。例えば人口は、50年後は1億人を切り、100年後には数千万になる。このような、境界条件を踏まえて物事を考える必要がある。広域地域では拠点都市を形成し、その都市間を幹線インフラで結び、中間は緑にする。また、都市内でもコンパクトシティを形成し、拠点間を幹線インフラで結ぶ。そのためには、都市内の既存駅の有効活用が重要となってくる。
- ・資料の中で4つの柱が挙げられたが、それらを実現していくためには、優先順位をつけ、短、中、長期で分けて進めていく必要がある。
- ・短期計画は、ロードマップのようなものが良いと考える。長期スパンでの取り組みを見据えたロードマップの作成が必要である。
- ・こうした一連の取り組みにおいては、キャッチフレーズが有効と考える。個人的には、「特徴あるコンパクトな複数拠点からなる真に豊かな地域～縮小こそ新たな美しい発展へのみち～」が良いと思う。縮小を積極的に捉え、活かすことこそが真に豊かな地域の発展につながる。

○豊田 中部経済連合会長

- ・次元の高いビジョンだと思う。

○箕浦 東海商工会議所連合会会長・名古屋商工会議所会頭

- ・大変良くまとまったレポートである。ものづくりの中心地、日本の中心地として、これからも益々発展していく必要がある。この点で、社会資本整備では、スーパー中枢港湾（名古屋港、四日市港）の整備・拡張、高速道路、空港の整備が必要になってくるだろう。
- ・ありがたい提言を聞かせていただいた。これからは、スピードが重要な時代。変化に富んだ状況に対応できるような政策スタンスが重要と考える。

◇意見交換

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

- ・非常に心配していることは、万博開催にともなって整備されたインフラの現状である。特に、あおなみ線、リニモを有効に使いこなす必要があり、今のままでは近い将来、採算不良になることが十分に考えられる。これらを有効活用しなければ、全国の恥となる。大阪万博では、整備されたインフラが、その後有効に活用された。
- ・道路に関しては、料金システムの複雑化も起因して、一般道の方がよく利用されているのが実情である。これらの改善を図るとともに、使ってもらおうという点では、ネットワークの形成が今後重要であり、特に、東海環状の西側の整備と第2環状の整備が不可欠である。地域をあげてもっと要望する必要がある。

○野呂 三重県知事

- ・現在、時代は変わり目にあり、これから益々縮小社会になっていく。現在の価値観や社会システムでは、いずれ合わなくなっていくだろう。その問題意識や100年先を見据えた価値観が国民と共有できるかが課題である。
- ・今後、ビジョンで示された方向性をこの圏域で共有できるかが一番重要なポイントである。三重県では、住民との協働実現のためNPG（ニューパブリックガバナンス）への転換に取り組んでいるが、時代の変わり目はなかなか住民には理解されにくい。

○古田 岐阜県知事

- ・ 国土の健康回復の実現というのは魅力的なテーマであり、この考え方を共有し、実行できる形で進めていきたい。その際、フォーラム間の連携を念頭に置いて前進する必要があると考える。
- ・ また、人口重心を考えると日本のまんなかは岐阜県関市であり、日本のまんなかとして、交流のつなぎ役として広域的な政策を行っていきたい。
- ・ 岐阜県では、県政の柱の一つに生きた森づくりがあり、100年スパンの取り組みを行っている。環境、グリーンツーリズム等の取り組みを推進していくうえでも、生きた森づくりは、中部圏においても大きな課題である。

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

- ・ 「～縮小こそ前進～」というキャッチフレーズの副題については、最終的にビジョンには記載しなかったが、まんなか懇談会では、適度な縮小は前進であるという意識でこれまでも活発に議論が行われてきた。
- ・ ビジョンは、50年、100年先を見据えた骨組みとしてまとめたもので、まだたたき台と考えているため、各県の計画に反映していただくとともに、その結果をフィードバックしていただきたい。意見の対流をさせ、必要であれば新たな提言をまとめても良いと思う。

○松原 名古屋市長

- ・ あおなみ線の心配をしていただき、ありがたい。名古屋市全体で乗客誘致をしていく。港湾の開発も強化していきたい。また、沿線で産業博物館を考えている。今後、多くの方の力が必要になってくる。
- ・ ビジョンの精神を活かすには、具体的なモデルを起こすことが重要であると思う。縮小社会への対応を真剣に考えていきたい。
- ・ 名古屋市では「駅そばルネッサンス」という、地下鉄の駅を拠点とした魅力的なまちづくりに取り組んでいる。

○神田 愛知県知事

- ・ 提言のコアは環境である。国土マインドもベースにあるのは環境である。
- ・ 万博開催にあたって強く思っていたことは、環境で人が呼べるのかということであった。しかしながら、万博を経て、環境が社会生活、ライフスタイルのキーワードとなることが分かった。
- ・ 環境をキーワードに50年先、100年先の方向性を示してくれたことは、高く評価する。
- ・ 問題は各論である。経済、社会的に容易に目的を達成できない難しい時代になった。その中で、国、地方、経済界の連携が不可欠である。万博を通じて、産学官民がひとつになれた。そうした連携も不可欠である。
- ・ 今後の社会資本整備においては、環境と連携が不可欠である。

3. 閉会

○谷山 中部運輸局長

- ・ 挨拶（略）

以上